

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：村山 一弥

事業名 東九州自動車道 志布志 ^{しぶし} ～末吉 ^{すえよしたからべ} 財部	事業区分 高速自動車国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局				
起終点 自：鹿児島県志布志市志布志町志布志 ^{しぶししししぶしちようしぶし} 至：鹿児島県曾於市末吉町深川 ^{そおしすえよしちようぶかがわ}		延長 48.0km				
事業概要 東九州自動車道 志布志～末吉財部は、高速道路ネットワークの一部を形成することにより、大隅地域へのアクセス性強化や、物流の効率化による地域産業活性化の支援等を目的とした事業である。						
H9年度事業化	H8年度都市計画決定 (H25年度変更)	H12年度用地着手				
全体事業費 約1,459億円		事業進捗率 83%				
計画交通量 4,600～17,700台/日		供用済延長 28.8km				
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 3.7 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 (残事業)/(事業全体) 198/1,905億円 (事業費：147/1,762億円) (維持管理費：51/143億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 (残事業)/(事業全体) 731/2,453億円 (走行時間短縮便益：596/1,987億円) (走行経費減少便益：98/294億円) (交通事故減少便益：38/171億円) </td> <td style="text-align: center;"> 基準年 平成29年 </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 3.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 198/1,905億円 (事業費：147/1,762億円) (維持管理費：51/143億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 731/2,453億円 (走行時間短縮便益：596/1,987億円) (走行経費減少便益：98/294億円) (交通事故減少便益：38/171億円)	基準年 平成29年	
B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 3.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 198/1,905億円 (事業費：147/1,762億円) (維持管理費：51/143億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 731/2,453億円 (走行時間短縮便益：596/1,987億円) (走行経費減少便益：98/294億円) (交通事故減少便益：38/171億円)	基準年 平成29年			
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.2～1.4（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.3～1.3（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±20%） 【残事業】 交通量：B/C=3.3～4.1（交通量 ±10%） 事業費：B/C=3.4～4.0（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=3.5～3.7（事業期間±20%）						
事業の効果等 ①広域交通ネットワークの形成 ・沿線都市間の所要時間短縮により、大隅地域の連携強化や経済活性化に寄与 ②地域産業の支援 ・広域ネットワークの形成による効率的な輸送及び畜産業の更なる振興に貢献 ③救急医療活動の支援 ・第二次救急医療施設（鹿屋医療センター）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ④災害時の移動経路確保 ・災害リスク箇所の回避による安全性の向上 ⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）						
関係する地方公共団体等の意見 鹿屋市をはじめとする関係首長及び議会議長等で構成される大隅総合開発期成会（会長：鹿屋市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成29年8月）						
県の意見 「対応方針（原案）」案の「継続」については、異存ありません。 当該道路は、九州縦貫自動車道等とともに広域的な高速交通ネットワークを形成し、九州の一体的浮揚に寄与するだけでなく、農畜産業など地域産業の更なる活性化や観光の振興等、大隅地域の発展に寄与する重要な道路であることから、事業の継続をお願いします。 また、平成32年度までに開通すると示されているところであり、できる限り早期に整備完了していただきたい。						
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は鹿児島県及び九州全体よりも多い。国道220号現道の交通量は減少傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- 平成9年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率83%（平成29年3月末時点）
- 平成21年度：曾於弥五郎IC～末吉財部IC間 延長11.1km（2/2）部分開通
- 平成26年度：鹿屋串良JCT～曾於弥五郎IC間 延長17.7km（2/2）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

道路土工構造物基準の制定に伴う軟弱地盤対策の追加、切土発生土の盛土材への改良、埋蔵文化財調査の増加

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。